

ふりがな	あとぼりいせき	
遺跡名	跡堀遺跡 (海老名市No.82遺跡)	
調査期間	20130401～継続中	
所在地	海老名市門沢橋	
時代	縄文 弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世	

更新日:平成25年7月1日

調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置 相模川左岸、JR相模線門沢橋駅の北西約600mにある標高14m程の自然堤防上

主な調査成果 近世面で畑の畝(うね)状遺構や溝状遺構のほか、イモ穴(作物の貯蔵穴)と考えられる土坑(どこう)が検出され、江戸時代に広い範囲で耕作地として利用されていたことがわかりました。遺物は、主に18～19世紀頃の陶磁器や銭、砥石(といし)、鉄製品などの生活用具が出土しました。なかでも泥面子(どろめんこ)(面模(めんがた)・芥子面(けしめん)・面打(めんちょう))と呼ばれる土製玩具が多く発見されています。



▲ 調査風景



▲ 近世面完掘状況



▲ 近世遺物(焙烙)出土状況



▲ 様々な泥面子